

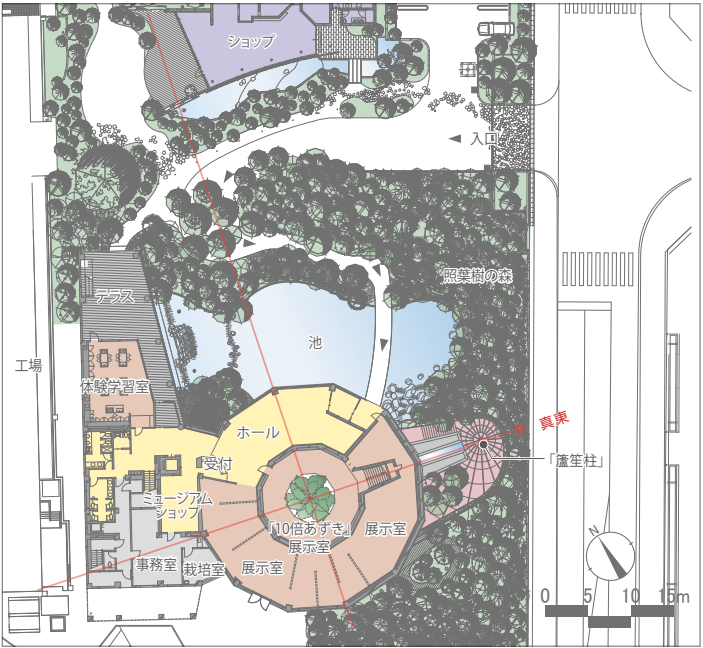
|              |                                 |                                                             |
|--------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| あずきミュージアム    |                                 | No. 05-020-2011作成                                           |
| Azuki Museum |                                 | 新築／外構・景観<br>美術館・博物館                                         |
| 発注者          | 株式会社 御座候                        | カテゴリー                                                       |
| 設計・監理        | KAJIMA DESIGN (建築)<br>大北美松園（造園） | A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB |
| 施工           | 鹿島建設・大北美松園                      | E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携                  |
|              |                                 | I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他                                |

照葉樹の森と井水のせせらぎによるミュージアム庭園の創出



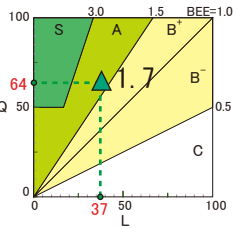
1 階テラスから庭園と展示室を望む

あずき文化伝承の中核拠点として  
あずきをテーマとしたミュージアムである。  
施主は大判焼の製造・販売をしており、あずきを原料として使用している。あずきは日本人の生活に密接な関わりを持ち、古くから年中行事や人生の通過儀礼に欠かせぬ食べ物として大切に扱われてきた。その文化遺産を後世に引き継ぐため、“あずき文化”の探求、伝承、創造活動の中核拠点として本施設は開設された。  
あずきの故郷は東アジアに広がる照葉樹林帯にあり、照葉樹の森に建物を埋没するように配置することが重要なポイントであった。また隣接する既存工場で使用したあずきの洗浄水（井水）を再利用して水のせせらぎとし、生野石の石積みにより水に多彩な表情を与えた。池には橋を渡し、周囲との結界を創出した。  
展示空間は自然採光を利用した「10 倍あずき」展示室を中心に、同心円状の回遊動線をもつ。外装にはレンガ積みを採用し、周囲の森に溶け込み、時とともに風合いのある表情になってゆくことを意図した。



配置図兼 1 階平面図

|       |          |
|-------|----------|
| 建物データ | CASBEE評価 |
| 所在地   | Aランク     |
| 竣工年   | BEE=1.7  |
| 敷地面積  | 2006年度版  |
| 延床面積  | 自己評価     |
| 構造    |          |
| 階数    |          |



住民の憩いの場として緑地を提供  
敷地周辺は開発前の空地や新旧道路が入り混じっており、やや殺伐とした印象である。本施設は、周囲が今後開発されていく中においてその手本となり、同様に良好な環境が創られていくことを促す、という先導的役割を果たしている。庭園は常時無料で開放されており、地域住民の憩いの場として利用されている。

室内から楽しむ庭園への眺望  
ミュージアムでは来訪者に様々な場所から庭園を望めるようにしている。エントランスホール、レストラン、調理体験室など、季節や時刻による庭園の変化を常に見ることが出来る。

自然採光による展示空間  
環境負荷的な側面のみならず、演出的な側面からも、展示室には自然採光を十二分に取り入れている。10 倍あずき展示室では、畑に植えられている苗に太陽光が降り注ぐ姿を再現し、虫の目となった来館者を楽しませる。太陽信仰の象徴である蘆笙柱を望む展示室では、真東にスリット窓を設け、春秋分にはその軸線上に昇る朝日を眺めることができる。いずれの展示室も、天候や時刻、季節などの光の違いにより、様々な表情を味わえる空間となっている。

あずき文化を伝える庭園  
敷地内には中高木を 35 種 506 本、低木を 30 種 3800 株、地被 53 種 21600 株、山野草を 120 種 360 株植え、あずきの故郷である東アジアの照葉樹林帯の雰囲気を与えている。生野石の石組みによる滝は、池の井水(工場でのあずきの洗浄水)の流れに動きを与え多彩な表情を創り出しており、そのさざ波は池底の蓄光石による三日月をおぼろ月とする。また 1 階エントランスと 2 階テラスの壁面には大判焼の古焼板をリサイクルしたモニュメントが設置され、企業アイデンティティをユニークな形で表現している。



木、水、石が渾然一体となった庭園の俯瞰

設計担当者  
統括：管野忠司／建築：管野忠司、笠原恒孝、千葉洋／構造：森崎論志／設備：弓岡和明、黒田憲二／外構：大北望

主要な採用技術 (CASBEE準拠)  
Q3. 1. 生物環境の保全と創出（外構緑化）  
Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（低層建物と緑化による地域景観への配慮）  
Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（地域への憩い空間の提供）  
LR1. 2. 自然エネルギー利用（自然採光による展示空間、井水（隣接工場のあずき洗浄水）の再利用



池越しに建物を望む



エントランスホール

レストラン



10倍あずき展示室

蘆笙(ろしょう)柱を望む展示室



生野石の石積み

蓄光石の三日月

生野石の滝